

# 所信表明演説

(令和8年3月定例会)

この冬は週末ごとにまとまった雪が降り、特に衆議院議員総選挙と町長・町議会議員選挙とのトリプル選挙となった投票日の2月8日は、顕著な大雪に関する情報が発出される、今年一番の大雪に見舞われました。先月下旬からようやく気温も上がり、雪解けが進み、春の足音が一気に高鳴ってまいりました。

本日、令和8年第2回若桜町議会定例会を招集いたしましたところ、議員の皆様にはこぞってお集まりいただき、諸議案のご審議を賜りますこと、感謝申し上げます。

議員の皆様には、このたびの若桜町議会議員一般選挙におきまして、ご当選を果たされましたこと、改めてお祝いを申し上げます。私も町長選挙におきまして、二期目の当選を果たすことができました。2月20日の初登庁から半月が経ちましたが、新たな気持ちで二期目の職責を果たしてまいりたいと考えておりますので、ご指導、ご協力をよろしく申し上げます。

さて、これまで一期4年間、人口減少に歯止めを掛けようとして取り組んでまいりましたが、残念ながら、人口の減少は止められていません。今回の選挙にあたり、全集落、全戸を回りましたが、過疎化・高齢化は進行し、空き家は増え、4年前よりも一層深刻さを増していると実感しました。人材不足や地域社会の維持ということが喫緊の課題であることを改めて認識しました。

それでも、これまでの施策の方向性、つまり、地域の経済を潤すことと町民の暮らしを守ることを中核に据えて取り組んできたことは、決して間違っていないと思います。二期目は、

一期目の成果を活かしつつ、より進化させたいと思います。「足腰の強い地域社会」という目標を、選挙中、掲げてまいりました。人口減少の下げ止まりを引き続き目指しつつ、あわせて、人口減少という社会の変化にしっかり適応し、しなやかな粘り腰で決して土俵を割らない、持続的に機能し続ける地域社会を目指します。

そのために、特に次の3点に力を入れます。

①一つは、町民のつながるチカラを強め、応援団となる関係人口を増やします

- ・町民のつながるチカラは、防災、防犯、健康づくり、地域経済などまちの様々な機能を高めます。認知症対策や障がい者福祉など地域福祉活動の土台ともなります。町民の集う場、コミュニケーションの場を増やし、強固なネットワークを形成します。明るい兆しも見られます。地域食堂がこの1年余りの間に3つも新たに誕生するなど、コミュニティの活性化に手応えを感じています。こうした町民の取組をしっかりとサポートしていきます。
- ・これに加えて外のチカラ、つまり、町出身者、観光リピーター、ふるさと納税者、まちづくりにノウハウを持つ民間企業などの関係人口を増やし、町の応援団として、国のふるさと住民登録制度も活用しながら、ともにまちづくりを進めます。

②二つは、地域の産業を振興し、経済を活性化し、雇用を確保します

- ・林業・林産業では、町産材に地元で付加価値を付け、地域経済が循環し、山元にもお金が残る仕組みを地元の林業関係者とともに検討します。山林境界の明確化や路網整備など素材

生産量を増やすための環境整備も引き続き進めます。

- ・農業については、昨年、国の交付金の受け皿となる集落組織を広域化し、集落を基盤に農業を営み、農地を維持管理する体制を整備しました。これを土台に、米やエゴマに次ぐ特産品として、発信力のあるそばなどを伸ばし、農家所得の向上を目指します。
- ・観光については、若桜宿内で古民家を活用した分散型ホテルの取組を進めていますが、これに合わせて体験メニューの造成やガイドの育成、土産物の充実などに取り組み、氷ノ山のグリーンシーズン対策とも連携を取りながら、滞在型観光をより深化させます。あわせて、観光資源の目玉でもある若桜鉄道を活用し、国内の鉄道ファンや台湾をはじめインバウンドの誘客を促進します。
- ・今月2日から「おにっこPay」、デジタル地域通貨の運用をスタートしました。多くの町民に利用いただき、地産地消を促進するとともに、行政ポイントも活用して地域経済の循環構造をより強化することで、人口が減少しても、地域の購買力を維持し、商業機能の活性化を図ります。

### ③三つは、町民の暮らしをよりきめ細かくサポートします

- ・人口が減少する中で、よりきめ細かく町民に寄り添った生活支援を行います。集落機能の低下を踏まえ、集落支援員を増員して若桜地区にも拡げ、マンパワーとデジタルの力を組み合わせ、買い物環境、地域医療や公共交通など町民生活の利便性を高めます。
- ・今年度導入したマルチタスクカーを活用し、わかさ生協診療所と連携して、4月からオンラインでの移動診療サービスをスタートします。今後、災害発生時の現地対策本部としての

活用や移動期日前投票所としての活用など町民ニーズを把握しながら検討します。

- また、高齢者世帯の増加に伴い、今後弁当や総菜の宅配ニーズが高まることが見込まれます。デジタル技術等を活用した宅配サービスの検討を進めます。
- 今後、免許返納者が大きく増えることが予想され、公共交通の利便性確保は喫緊の課題です。業界でドライバーが不足する中、住民ドライバー主体の交通体系にシフトしなければなりません。住民の皆さんのご協力により、池田地区では4月から全域で共助交通に、若桜宿では大型連休前にグリーンスローモビリティに移行します。今後、他のエリアでも共助交通の導入を働き掛けてまいります。

以上、私の施策の一端について申し上げましたが、こうした取組の先に目指す社会は、町民が活力に満ち、外からも多くの人々が往来するにぎやかなまちです。そして、これを実現するためには、町民、民間団体や町内企業との連携を図りながら、オール若桜で取り組んでいく必要があります。あわせて、町職員がその持てる力を十分に発揮できるよう、職場環境や体制を整えていきたいと思えます。

今後、来年度策定予定の第1次若桜町総合計画や第3次総合戦略に盛り込み、施策化してまいります。施策の実現に向けて、議員の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。所信表明とさせていただきます。ありがとうございました。